

5. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【平成 30 年度第 1 四半期】

提案 1 2

＜概要＞

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間 10 回程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計 3 件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに 2 件まで

○今回提案【平成 30 年度第 1 四半期】 提案なし

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- (1) 各年度 3 2 回まで、及び四半期ごとにおおむね 8 回
(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【平成 30 年度第 1 四半期】 提案なし

6. その他のシンポジウム等

公開シンポジウム「第1回フューチャー・デザイン・ワークショップ」の 開催について

1. 主 催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所、高知工科大学フューチャー・デザイン研究所

2. 日 時：平成 30 年 1 月 27 日（土）12:30～18:30
平成 30 年 1 月 28 日（日）8:30～14:40

3. 場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所講演室

4. 分科会等の開催：開催予定

5. 開催趣旨：私たちの社会の仕組みの二つの柱は市場と民主制である。市場は「将来世代を考えて資源を配分する仕組み」ではない。というのは、将来世代は存在しないので、残して欲しいものがあってもそれを市場で表明できないからである。さらには、民主制も、今の人々の利益を実現する仕組みであり、「将来世代を取り込む仕組み」ではない。選挙で遠い将来の人々にとって良い政策を提示したところで、その候補者は当選しないであろう。つまり、私たちの社会の仕組みは将来世代の可能性を惜しみなく奪っているのである。それではどのような仕組みを考えればよいのか。「今の利得がたとえ減るとしても、これが将来世代を豊かにするのなら、この意思決定・行動そのものがヒトをより幸福にする」というヒトの性質を「将来可能性」と呼ぼう。将来可能性を生む社会の仕組みのデザインとその実践を通じて、市場と民主制を変革する新たな社会の構築を目指すのがフューチャー・デザインである。フューチャー・デザイン研究を開始した研究者の初めての会合が今回のフューチャー・デザイン・ワークショップである。

6. 次 第：

平成 30 年 1 月 27 日（土）

12:30 「フューチャー・デザイン」

西條 辰義（日本学術会議第一部会員、高知工科大学経済・マネジメント学群教授、総合地球環境学研究所特任教授）

13:20 「参加型討議実践から見えるフューチャーデザインの可能性と研究展望」

原 圭史郎（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科 招へい准教授）

13:50 「矢巾町におけるフューチャー・デザイン」

吉岡 律司（岩手県矢巾町役場）

- 14 : 30 「将来世代配慮型の討議と割引率低下の可能性」
齊藤 誠（一橋大学大学院経済学研究科・経済学部教授）
- 15 : 00 「松本市における市内パイロット実施の報告
- WS 実施手法の模索と時間選好測定」
西村 直子（学術会議連携会員、信州大学学術研究院社会科学系教授）
- 15 : 30 「社会教育プログラムとして見た／
意思決定プログラムとして見たフューチャー・デザイン」
太田 和彦（総合地球環境学研究所研究員）
- 16 : 10 「持続可能な社会形成に高齢層が果たす役割の検討」
亀田 達也（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）
齋藤 美松（東京大学大学院人文社会系研究科）
- 16 : 40 "Is a Zero Population Growth Rate Optimal in Aging European Economies?"
宮越 龍義（日本学術会議連携会員、法政大学理工学部経営システム工学科教授）
- 17 : 20 「新国富と地域展開」
馬奈木 俊介（日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研究院教授）
- 17 : 50 「フューチャー・デザイン」のあるべき姿・可能性の討論と報告会
- 18 : 30 閉会

平成 30 年 1 月 28 日（日）

- 8 : 30 「世代間協調問題のインセンティブ構造についての考察」
小林 慶一郎（慶應義塾大学経済学部教授）
- 9 : 00 「財政における論理と倫理」
廣光 俊昭（財務省財務総合政策研究所客員研究員）
- 9 : 30 「国と地方の財政に関するフューチャー・デザイン」
新居 理有（高知工科大学経済・マネジメント学群講師）
中川 善典（高知工科大学経済・マネジメント学群准教授）

10 : 10 “Future Design and Social Innovation”

青木 玲子（日本学術会議連携会員、公正取引委員会委員）

10 : 40 「フューチャーデザインに基づくリスクコミュニケーション」

倉敷 哲生（大阪大学大学院工学研究科准教授）

11 : 10 「フューチャーデザインを活用した住民主体のまちづくり手法の検討」

武田 裕之（大阪大学工学研究科講師）

11 : 40 "Adjusting Short-term Profit Maximization Behavior by “One Additional Line” of Profit & Loss Account"

鈴木 智英（早稲田大学商学学術院教授）

13 : 10 「メゾ領域から見たフューチャー・デザインの研究課題」

上須 道德（大阪大学環境イノベーションデザインセンター特任准教授）

13 : 40 「ドメイン投票とフューチャー・デザイン」

肥前 洋一（高知工科大学マネジメント学部教授）

14 : 10 「ニューロ・フューチャー・デザインの展望」

青木 隆太（高知工科大学フューチャー・デザイン研究所講師）

14 : 40 閉会

7. 関係部の承認の有無：第一部、第三部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「がんと代謝～新たな研究領域の創生から革新的な治療薬開発へ～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議薬学委員会生物系薬学分科会、日本薬学会

2. 共 催：なし

3. 後 援：国立研究開発法人国立がん研究センター

4. 日 時：平成 30 年 1 月 12 日（金）13：00～17：00

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

代謝は、生体の活動に必要なエネルギーの産生や生体を構成する有機物の合成だけでなく、エピゲノム修飾による遺伝子の発現制御を介した細胞の分化や増殖の制御に重要である。がんではエネルギー産生に主として解糖系を利用するワールブルグ効果など、代謝異常が見られることが古くから知られていたが、この原因や意義については不明であった。最近の研究から、がんでは代謝酵素の遺伝子変異や発現異常などが見られ、がんの発生、進展、維持に代謝が深く関与することが明らかになってきた。さらには、がん特異的な代謝経路やがんの維持に必須な代謝酵素が明らかにされ、創薬標的の新しい領域として注目を集めている。

本シンポジウムでは、代謝解析の技術革新から最先端の代謝研究、さらには代謝を標的とした革新的な治療薬の開発まで、この領域を牽引する研究者にご講演をいただき、創薬に対する新たなアプローチと今後の方向性について考えてみたい。

8. 次 第：

13:00 - 13:10 開会挨拶

奥 直人（日本学術会議連携会員、日本薬学会会頭）

中釜 斉（国立がん研究センター理事長）

座長：三浦 正幸（日本学術会議連携会員、東京大学大学院薬学系研究科教授）

13:10 - 13:45

脳腫瘍幹細胞の低酸素応答

佐谷 秀行（慶應義塾大学医学部先端医科学研究所遺伝子制御研究部門教授）

13:45 - 14:20

がん細胞とその微小環境における酸化ストレス応答機構の意義

本橋 ほづみ（日本学術会議連携会員、東北大学加齢医学研究所遺伝子発現制御分野教授）

14:20 - 14:55

変異型イソクエン酸脱水素酵素を標的としたがん治療

北林 一生（日本学術会議連携会員、国立がん研究センター研究所副所長）

座長：西島 正弘（昭和薬科大学学長）

15:10 - 15:45

大腸がんの代謝制御機構

曾我 朋義（慶應義塾大学先端生命科学研究科教授）

15:45 - 16:20

栄養シグナルと白血病幹細胞

平尾 敦（日本学術会議連携会員、金沢大学がん進展制御研究所教授）

16:20 - 16:55

アミノ酸トランスポーターを標的としたがん細胞代謝制御と治療

金井 好克（大阪大学大学院医学系研究科教授）

16:55 - 17:00 閉会挨拶

堅田 利明（日本学術会議連携会員、武蔵野大学薬学部長）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「政治関連データ・アーカイブの構築と拡充」の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会政治過程分科会、文部科学省科学研究費基盤A「政治関連データ・アーカイブの構築と拡充」、慶應義塾大学創造クラスター研究「多言語検索型社会データ・アーカイブの創造と利用」
2. 日 時：平成30年2月23日（金）13：00～18：00
3. 場 所：慶應義塾大学三田キャンパス東館6階ラボ
4. 分科会等の開催：なし
5. 開催趣旨：現在の社会科学においてデータに基づく分析が不可欠であることは論を待たない。それにも関わらず、日本に社会科学で用いるデータのための体系的なデータ・アーカイブがないために、①各研究者による研究期間終了や退職に伴いデータが散逸し、研究費が非効率的に使われている、②自治体合併による自治体行政資料や一定期間経過後の判例など貴重なデータが散逸している、③国際競争への対応として、中国や韓国などが急速に学術の国際化やデータのアーカイブ化を推進する中で、日本のデータ公開が立ち後れていることが海外における日本研究衰退の一因となっている、④オープンデータの推奨ならびに研究健全化のためのデータ保存義務化に十分には対応できていない、などの問題が生じている。
 こうした現状の問題点を改善するために、本シンポジウムでは社会科学のためのデータ・アーカイブについて、その概要や利用方法を実演しながら紹介する。同データ・アーカイブに収納されているデータは、第二次大戦以降の全ての衆議院議員選挙・参議院議員選挙の市区町村別選挙結果データ、国勢調査の市区町村別・メッシュ別データ、法令・判例データ、衆議院・参議院・都道府県議会の本会議及び全ての委員会の議事録データ、衆議院議員選挙・参議院議員選挙の候補者の選挙公約及び属性データ、SNSデータ、ならびにアジア諸国の法令・判例データ、国勢調査データなどである。
 さらに、本シンポジウムでは、そうしたデータに基づく研究事例として行政・立法研究及び選挙・政党研究について韓国延世大学や台湾国立政治大学からの招聘報告者を交えて報告する。このシンポジウムを通じて、これからの社会科学におけるデータ・アーカイブならびにデータ・エビデンスによる研究のあり方について協議することにした。

6. 次 第：

13：00～15：00 第1部 政治関連データ・アーカイブの構築と拡充

司会 西川 伸一（日本学術会議第一部会員、明治大学政治経済学部教授）

報告 小林 良彰（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）

「中国国勢調査データによる高齢者福祉政策」

報告 飯田 健（同志社大学法学部准教授）

「世論調査データと社会経済データによる国家間マルチレベル分析」

報告 ケネス・盛・マッケルウェイン（東京大学社会科学研究所准教授）

「憲法データによる非常事態条項の分析」

報告 名取 良太（日本学術会議連携会員、関西大学総合情報学部教授）

「自治体データによる地方政治データ・アーカイブの構築」

15:00～15:30 休憩

15:30～17:30 第2部 データ・アーカイブの創造と利用

司会 河野 武司（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）

報告 谷口 尚子（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院システム・マネジメント研究科准教授）

「政党の選挙公約等のデータに基づく変化と影響要因の分析」

報告 三輪 洋文（学習院大学法学部准教授）

「大規模世論調査データによる信念体系の析出

——混合分布潜在変数モデルを用いた分析」

報告 鎌原 勇太（横浜国大学大学院都市イノベーション研究院講師・専任）

「各国国政選挙データによる区割機関の分析」

報告 築山 宏樹（日本学術振興会 PD 特別研究員・

東京大学大学院法学政治学研究科）

「自書式投票制度の効果」

18:00 閉会

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「文理融合科学から持続可能な地球環境を考える－世界への日本の貢献－」の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会 IGU 分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：地理学連携機構（予定）、公益社団法人日本地理学会（予定）、一般社団法人人文地理学会（予定）、日本地図学会（予定）
4. 日 時：平成 30 年 4 月 9 日（月）13：30～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（他 4 室）
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：持続可能な地球環境を考えるためには文理融合科学からの視点が必要である。国際地理学連合では持続可能な都市、国際地球理解年の創設、持続可能な農村開発、ジェンダーの視点を取り入れた環境計画・政策に向けた研究、災害リスク軽減に向けた応用地形学からの検討など、人間の側に重きを置いた防災への取り組み等、精力的に現在必要とされる研究課題に取り組んできた。これらは文理融合科学ならではの取り組みであり、将来にむけた地球環境計画に深く切り込むものである。国際地理学会に日本からの会長が選出されたこともあり、今回のシンポジウムでは世界にむけた日本からの研究成果の発信を図りたい。
8. 次 第：

司会：石川 義孝（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院文学研究科教授）

13：30 趣旨説明
春山 成子（日本学術会議第三部会員、三重大学大学院生物資源学研究科教授）

13：40 講演「国際的諸課題への IGU（国際地理学連合）の取組みと日本の貢献」
氷見山幸夫（日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授）

14：00 講演「地理学と地形学からハザードリスクを考える」
小口 高（日本学術会議連携会員、東京大学空間情報センターセンター長・教授）

14：20 講演「東南アジア地域の気候から防災に挑む」
 松本 淳（首都大学東京都市環境科学研究科教授）

14：40 講演「地政学から「平和と環境」の政治地理学へーIGU 政治地理委員会の 35 年」
 山崎 孝史（大阪市立大学大学院文学研究科教授）

15：00 講演「グローバリゼーションの進展と女性を取り巻く環境の変化」

吉田 容子（奈良女子大学大学院人文科学系教授）

15：20 講演「国際地理オリンピックにおける地球環境に関する出題傾向」

井田 仁康（筑波大学人間系教授）

15：40 講演「国際地図学会議 2019 年東京大会（ICC 2019TOKYO）の招致開催の意義」

森田 喬（日本学術会議連携会員、法政大学名誉教授）

16：00 講演「日本地理学の国際化」

村山 祐司（日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系教授）

16：30 総合討論

（司会）岡本 耕平（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院環境学研究科
長）

16：50 閉会挨拶

奥村 晃史（日本学術会議連携会員、広島大学大学院文学研究科教授）

17：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「第 31 回環境工学連合講演会」の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会
2. 共 催：公益社団法人化学工学会、公益社団法人環境科学会、環境資源工学会、公益社団法人空気調和・衛生工学会、高分子学会、一般社団法人資源・素材学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人大気環境学会、公益社団法人土木学会、日本 LCA 学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本水道協会、公益社団法人日本セラミックス協会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本土壤肥料学会、公益社団法人日本分析化学会、○公益社団法人日本水環境学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会（○印は幹事学会）
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 30 年 5 月 22 日（火）9：15～17：10
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

「レギュラトリーサイエンスと環境工学」を統合テーマとして、官・学・民の研究者および技術者による学術成果、技術成果の発表、討議を通じ、バランスのとれた環境工学の発展を意図して行う。

環境政策は科学的根拠に基づいて、透明性を確保しながら立案・実施されなければならない。同時に、環境リスクを適切に管理しながら持続可能性を担保していく必要がある。わが国の現状を鑑みるに、化学物質管理をはじめとする様々な環境リスクの管理において、国際条約との整合性、国際機関の提唱する手段との国際的調和などに課題があり、また、国内では省庁の垣根を超えた一元管理が必要である事項も多い。官・学・民が協力して、科学と技術の調和を目指す規制を図るためのレギュラトリーサイエンスを有効とする組織・体制・法の整備を行い、さらに専門家を養成し、社会に送り出すシステムを早急に確立する必要がある。その上で、そのような人材の官・学・民の間の交流を行い、レギュラトリーサイエンスに基づく調和のとれた持続的発展の可能性を世界に示すことが、世界的リーダーを目指すわが国にとって重要な課題であると考え。本講演会は環境政策の推進において、環境工学とレギュラトリーサイエンスが果たすべき役割について議論する場としたい。
8. 次 第：

■開会（9:15～9:25）

◎開会挨拶：嘉門 雅史（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

□【調査（9:25～10:45）】

◎座長：永田 明寛（日本建築学会／首都大学東京都市環境学部建築都市コース教授）

A-01 招待講演：坑廃水処理の現状と JOGMEC が取り組む自然力活用型坑廃水処理の調査研究について

濱井 昂弥（資源・素材学会／石油天然ガス・金属鉱物資源機構金属資源技術研究所主任研究員）

A-02 招待講演：福島県の農業環境における放射性セシウムと内部被ばく線量の状況

塚田 祥文（日本土壌肥料学会／福島大学環境放射能研究所教授、副所長）

A-03 招待講演：建築物における室内空気環境の現状と課題（仮）

鍵 直樹（空気調和・衛生工学会／東京工業大学環境・社会理工学院准教授）

A-04 招待講演：大気環境中の化学反応によって生成する有害化学物質

亀田 貴之（日本分析化学会／京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻エネルギー環境学分野准教授）

□【規制・管理（10:55～12:15）】

◎座長：大岡 龍三（空気調和・衛生工学会／東京大学生産技術研究所人間・社会系部門教授）

A-05 招待講演：建築環境における感染症のリスクとその制御方法

柳 宇（日本建築学会／工学院大学建築学部建築学科教授）

A -06 招待講演：大気中の汚染物質に関する法規制と研究の現状

兼保 直樹（大気環境学会／産業技術総合研究所環境管理研究部門大気環境動態評価研究グループ長）

A -07 招待講演：日本の CO₂ 海底下貯留に関する法制度（仮）

柳 憲一郎（環境科学会／明治大学大学院法学研究科教授）

A-08 招待講演：欧州環境フットプリントへの参画を通じた、環境政策推進における LCA の役割（仮）

並河 治（日本 LCA 学会／株式会社日立製作所システム&サービスビジネス統轄本部環境推進本部・環境戦略センター長）

■【特別講演（13:00～13:30）】

◎座長：森口 祐一（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授）

S-01 特別講演：環境政策における意思決定のためのレギュラトリーサイエンス

秋葉 澄伯（日本学術会議第二部会員、鹿児島大学名誉教授）

□【規制・管理（13:40～14:40）】

◎座長：飯田 雅宣（日本機械学会／公益財団法人鉄道総合技術研究所研究開発推進部主管研究員）

P-01 招待講演：水系感染リスクの水質管理への利用（仮）

田中 宏明（土木学会／京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻教授）

P-02 招待講演：水環境に関する規制とその課題

浅見 真理（日本水環境学会／日本学術会議第三部会員、国立保健医療科学院生活環境研究部上席主任研究官）

P-03 招待講演：排水および土壌の規制制度からみたレギュラトリーサイエンス

細見 正明（化学工学会／東京農工大学大学院工学研究院応用化学部門教授）

□【規制・管理（14:50～15:50）】

◎座長：坂巻 隆史（土木学会／東北大学災害科学国際研究所災害リスク研究部門災害ポテンシャル研究分野准教授）

P-04 招待講演：地盤環境分野におけるレギュラトリーサイエンス

保高 徹生（地盤工学会／産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門地圏環境リスク研究グループ主任研究員）

P-05 招待講演：電磁環境の擾乱とその対策

小野 亮（静電気学会／東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授）

P-06 招待講演：腐食・防食のメカニズムと標準化（仮）

藤田 栄（日本鉄鋼協会／JFE テクノリサーチ株式会社フェロー）

□【技術（16:00～17:00）】

◎座長：村上 進亮（資源・素材学会／東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻准教授）

P-07 招待講演：鉱物資源に含まれる環境負荷物質の除去と資源生産プロセスへの技術解決アプローチ

柴山 敦（環境資源工学会／秋田大学大学院国際資源学研究科教授）

P-08 招待講演：循環型社会・低炭素社会に向けた政策動向からみた環境・エネルギー分野の技術開発のあり方（仮）

小野田 弘士（日本機械学会／早稲田大学理工学術院大学院環境・エネルギー研究科教授）

P-09 招待講演：放射能汚染廃棄物の処理・処分に係るガイドライン等に対する技術的研究

遠藤 和人（廃棄物資源循環学会／国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター主任研究員）

■閉会（17:00～17:10）

◎第 31 回環境工学連合講演会の総括：森口 祐一

（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授）

◎閉会挨拶：米田 雅子（日本学術会議第三部会員、慶応義塾大学先端研究センター特任教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催委員会委員）